

使うだけで「女性の雇用創出・ゴミ削減・おしゃれ」が叶う。 インドの伝統衣装サリーで作ったワインバッグを販売します 《5月10日、大手町にてポップアップショップ開催》

日本に「アップサイクル」を広めるために、エシカリージャパン合同会社（代表：中川雅里名）は**インドの伝統衣装サリーから作ったワインバッグ「I was a Sari」**を5月10日（水）にオーテモリ（東京都千代田区大手町1丁目5番5号）で販売します。

この製品はムンバイの工房でインドの女性職人が手作りした**アップサイクル**製品です。援助や寄付ではなく階級差別が根強く残る現地に**女性の雇用を創**ることが、SDGs目標5「ジェンダー平等を実現しよう」や目標12「つくる責任つかう責任」の達成に繋がると期待しています。

※「エシカル消費」とは環境や社会に配慮して作られたものを選び、消費すること

■アップサイクルとは？

今あるものを利用して「新たな製品」に作り替え、付加価値を与えること



SDGs採択後、エシカル消費（※1）という言葉が世間に広まってきました。消費者庁によると（※2）エシカル消費に繋がる商品を購入したい人は8割以上。エシカル消費・アップサイクルに価値を感じる人は着実に増えており、社会のニーズが高まっていると言えます。

※1...「エシカル消費」とは環境や社会に配慮して作られたものを選び、消費すること

※2...消費者庁、令和2年「エシカル消費に関する消費者意識調査報告書」より

1. 日本もインドも「衣類の大量廃棄」が社会問題になっている

日本で不要になった衣類の66%は、焼却・埋立されています。その量は年間48万トン。大型トラック約130台分を毎日焼却・埋立している計算です。（※）一方インドでは町の至るところにゴミが放棄されており、社会問題の一つとなっています。サリーで作ったバッグは、ファッション業界の環境負荷軽減に貢献します。

※環境省、令和2年度ファッションと環境に関する調査より

2. サリーのアップサイクルを広め、SDGsに貢献したい



▶目標1「貧困をなくそう」目標5「ジェンダー平等を実現しよう」

インドでは今も生まれた場所で一生が決まってしまう人が大半であり、下層階級の女性は「家にいるもの」が当然と考えられています。アップサイクルの雇用を創ることで、現在170人の女性職人が給与を得て医療・教育も受けられています。

▶目標12「つくる責任つかう責任」

ファッション産業における大量消費・大量生産の現実を知り、アップサイクルを生活に取り入れる第一歩になります。

▶目標13「気候変動に具体的な対策を」

すでに存在するサリー布でワインバッグを作るため、製造（布地の生産や染色）におけるCO2排出量および水使用量を大幅に削減することができます。

3.商品情報

ブランド名：【I was a Sari】（アイ・ワズ・ア・サリー）
ポップアップ開催日時：5月10日（水）11時～19時
場所：オーテモリ（東京都千代田区大手町1丁目5番5号大手町タワー）
価格：3,850円（税込）
公式サイト【EJ the shop】<https://ethically.theshop.jp/>



インドの伝統衣装サリーを**アップサイクル**し、ワインバッグに生まれ変わらせた一点ものです。インド文化の象徴であるサリーの魅力は、日本にはない大胆な色使い・表情豊かなデザイン。同じ色・デザインには出会えない、まさしく一期一会の世界です。

4.エシカルもおしゃれも叶う

「I was a Sari」はSDGsに貢献するだけでなく、インドの生命力あふれるエネルギーや多様性、美しさを体感できる逸品です。

「I was a Sari」を作ることで、インドの女性たちにも自分の人生を生きてほしい。

「I was a Sari」を買うことで、日本の方々にはおしゃれを楽しみながらSDGsの現実を知ってほしい。そう願いながら、世界と日本をエシカルでつなぐことに邁進してまいります。

5. 会社概要

エシカリージャパン合同会社、2023年4月設立。事業内容はエシカル製品の販売・ソーシャル活動の広報支援・教育業（講演）。「世界と日本をエシカルでつなぐ」をミッションに掲げ、環境や人に優しい製品を世界中から集め、作り出し、日本のみなさまへお届けします。

【本件に関するお問い合わせ先】

会社名：エシカリージャパン合同会社

住所：〒104-0061東京都中央区銀座1-12-4N&E BLD.7階

代表：中川 雅里名（なかがわまりな） URL：<https://ethicallyjapan.com>

TEL：050-3126-5495 メールアドレス：info@ethicallyjapan.com

■参考データ

エシカル消費につながる商品に「興味がある人・購入したい人」は増えています

消費者庁の調査結果 「令和2年エシカル消費に関する消費者意識調査報告書」より

